

教育心理学教室 修論・卒論標準書式

1行文字数全角40文字程度、1ページ行数30行程度、
左余白40ミリ程度、右余白20ミリ程度、上余白30ミリ程度、下余白30ミリ程度
ページ位置下中央

【引用文献の書き方】

(日本心理学会「執筆・投稿の手引き」に基づく)

1. 文献の配列順序

日本語文献と外国語文献とは分けずに、著者の姓名のアルファベット順に並べる(外国人の場合も姓を前にする)。同一著者によるものは刊行年次順とする。なお、M'、Mc、Macは、Macと綴られているものとして配列する。共著の場合、日本人ならば、「斎藤和志・中村雅彦」のように中黒(・)で結び、欧米人ならば、各著者名をコンマで区切り、最後の著者の前にコンマと&を置く。文頭は左端にそろえ、改行した場合は、全角2文字をあける。

2. 単独著書

著者、刊行年次、著書名、出版社の順に書く。

中村陽吉 1983 対人場面の心理 東京大学出版

[注: コンマやピリオドは使わない。]

Kelley, H.H. 1979 *Personal relations: Their structures and processes*. Lawrence Erlbaum Associates.

3. 編集書・監修書

長田雅喜(編) 1987 家族関係の社会心理学 福村出版

Berkowitz, L. (Ed.) 1970 *Advances in experimental social psychology*. Vol.5. Academic Press.

[注：(Ed.)は editor の略。編者が2人以上の場合は(Eds.)とする。]

4. 翻訳書

クラインク C.L. 福屋武人(監訳) 1984 ファースト・インプレッション 有斐閣
(Kleinke, C.L. 1975 *First impressions*. Prentice-Hall.)

5. 編集書の中の1章

著者、刊行年次、題目、編者、書名、刊行所、ページの順に書く。

斎藤和志 1990 媒体利用のコミュニケーション 原岡一馬(編) 人間とコミュニケーション ナカニシヤ出版 Pp.68-78.

McGuire, W.J. 1985 Attitudes and attitude change. In G.Lindzey, & E.Aronson (Eds.), *Handbook of social psychology*. 3rd ed. Vol. . Random House. Pp.233-246.

[注：編者の姓名の順に注意。ed. は edition の略。]

6. 逐次刊行物

著者、発行年次、論文題目、雑誌名、巻数、ページの順に記す。雑誌名は省略しないこと。

斎藤和志・中村雅彦 1987 对人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 34, 97409.

[注：コンマ、ピリオドの位置に注意。]

Swann, W.B., Jr., & Read, S.J. 1981 Self-verification process: How we sustain our self-conceptions. *Journal of Experimental Social Psychology*, 17, 351-372.

[注：Jr.の書き方に注意。]

7. 卒業論文・学位論文

年次は、年度ではなく卒業・修了年をそのまま記す。

斎藤和志 1985 実験ゲーム場面における对人的指向性の効果に関する研究 名古屋大学大学院教育学研究科修士学位論文(未公開)

3章 三重大生のソーシャルサポートと対人ストレス

問題と目的

近年、若者の対人関係の持ち方が変貌してきているという指摘がある。対人間に繰り広げられる相互作用が原因でストレスを感じ、さらにそのストレスに対する耐性を発達させてこなかったが故に、これに適切に対処する社会的能力を身に付けていない。その結果、きわめて不快な対人経験を繰り返す。傷つくことを恐れるが故に、傷つく可能性のある対人関係を、表面的で当たり障りのないものに限定し、他者との不必要な摩擦を避けることを学習し、決して他者の内面的な部分への深入りをするのが少なくなる。加えて、自分らしさへの希求は強く、他者や周囲の人々との調和そのものには関心が薄い。青年期の人たちの人間関係そのものが希薄化しているという指摘である。

心理学においても類似した指摘は数多い。例えば岡田(1993)は、「ふれあい恐怖的心性」というタームを用いて、こういった人間関係の希薄化現象を表現している。

本章では、こういった視点にたった上で、橋本(1997)の大学生の対人ストレスに関する社会心理学的研究を参考にしつつ、三重大学生の生活における社会的・対人的要因を取り上げその分析を試みる。つまり、主として「ソーシャルサポート」の量、「ソーシャルストレイン」の量、「対人ストレスイベント」の量を把握することにその目的がある。

人間関係の希薄化議論の根幹には、現代青年にとって対人関係がインパクトの強いストレスャーになっているという暗黙の仮定がある。心理学では、心理社会的ストレス研究において、対人関係がストレスャーになっている可能性は従来から少なからず指摘されている事実である。しかし同時に、青年期においては、発達課題として、対人ストレスの生起およびそれに対する対処を学習していくことは、不可避な課題であることもまた知られている。

方法

調査対象者および調査時期等は前述の通り。

本章で取り上げられた社会心理学的変数は、「ソーシャルサポート」の量、「ソー

「ソーシャルストレイン」の量、「対人ストレスイベント」の質と量である。

については、1.「あなたが悩んでいるとき、親身になって相談に乗ってくれそうな人」、2.「あなたが試験や実習、面接などを前にして、緊張し不安なとき、それを和らげてくれそうな人」といったサポーターの存在について聞く9項目からなるもので、それぞれのサポーターの人数を実数で答えてもらった (Table 1 参照)。

については、1.「おせっかいな人」16.「押しつけがましい人」など、各自のソーシャルネットワークにおいて、ストレスを感じさせる人の行動特徴を表す20項目 (内5項目はダミー変数) を用い、そういった人物の数を実数で答えてもらった (Table 2 参照)。これらの変数の総和が「ソーシャルストレイン」の量として定義される。

は、調査対象者の日常生活において経験している対人ストレスイベント (対人関係におけるストレッサーとなる出来事) を30項目用意し、それぞれの出来事が三重大学入学以降の人間関係の中で、どのくらい経験したかを、「しばしばあった：4点と得点化」「わりとあった：3点と得点化」「あまりなかった：2点と得点化」「全くなかった：1点と得点化」の4段階で答えてもらった (Table 3 参照)。

に関しては、前述の橋本 (1997) で尺度化されたものをそのまま利用した。

結果と考察

1. ソーシャルサポート

Table 1 はソーシャルサポートに関する9項目を因子分析したもの (主因子法・プロマ

図表の書き方

図表には必ずタイトルを付けること。図は Fig.、表は Table と書いても良い。

図と表にわけ、通し番号をつけ (eg. Fig.1 Fig.2 Table1 Table2)。

わかりやすいタイトルを続ける。

図のタイトルは図の下、表のタイトルは表の上につける。

以上、次ページを参考に、見やすい図表の作成を心がけること。

Table 5 相談施設に対するニーズとの関連（相関係数）

	SS	NS	PS	NE	IC	NC
1 身体的な問題についての相談室	0.045	0.096	0.037	<u>0.199</u>	0.055	0.121
2 心理的な相談のできる相談室	-0.034	-0.035	-0.095	<u>0.270</u>	0.155	<u>0.207</u>
4 自分の所属する専攻の教官による相談	0.145	-0.060	0.137	0.124	0.078	0.110
5 学生生活に関するよろず相談室	-0.037	0.014	0.000	<u>0.228</u>	0.092	0.153
6 学生運営による相談機関やネットワーク	0.011	0.013	0.018	0.102	0.071	0.054
8 法律や経済的な問題についての相談室	-0.068	0.031	-0.017	0.094	0.057	0.129
9 精神科の医師による相談室	-0.044	0.117	-0.033	<u>0.263</u>	0.161	<u>0.217</u>
10 宗教的な救いを与えてくれる人	-0.159	0.044	-0.151	0.159	0.169	0.112
11 はっきりした人生の指針を与えてくれる人	-0.107	0.092	-0.072	0.147	0.149	0.154

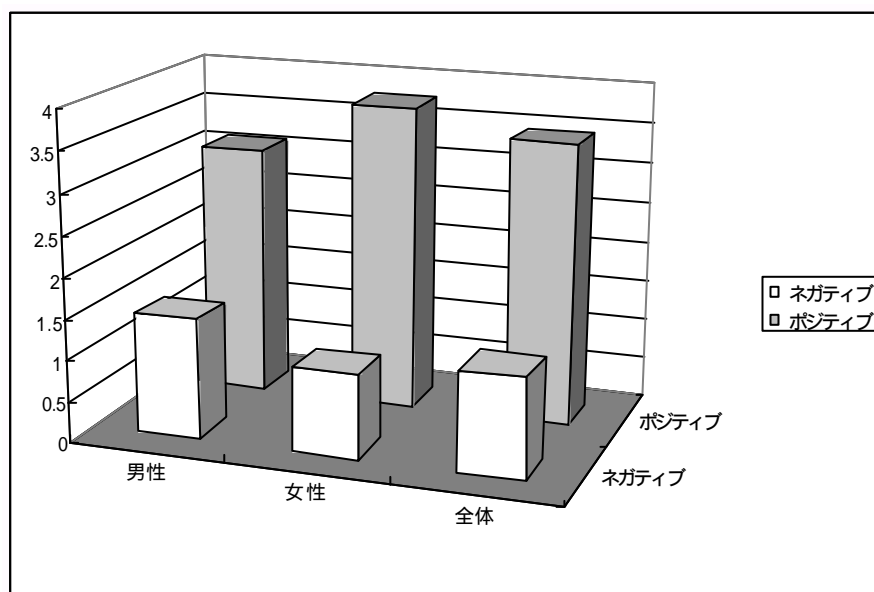


Fig. 3 ネットワークストレインにおける性差